



神奈川大学

産学連携事業「本の架け橋プロジェクト」御中

お礼とご報告

大切な書籍をご寄贈いただき、有り難うございました。

はじめまして。

JICA シニアボランティアとして、南米のチリで日本語教師をしております [REDACTED] と申します。

首都のサンチャゴから北に約 470 キロのところに位置する「ラセレナ」市。そこにあるラセレナ大学の公開講座部門で日本語クラスを担当し、また日本文化紹介のイベント実施を大学とともに行っております。

今回、ご縁があって多くの大切な書籍をご寄贈いただき、本当に感謝いたしております。日本語を学ぶ多くの学生や社会人、そして隣接する大学の書店にふらりと立ち寄るラセレナ市民に、少しでもこれらの日本語の本を手にとってもらいたい、と思っています。

贈呈式や、普段のこちらの様子についてまとめてみました。ご覧いただければ幸いです。



JICA シニア海外ボランティア



La Serena, Chile. Agosto 24 de 2016

**Señores
Kanagawa University
Proyect
"Hon no Kakehashi"
Japón**



De mi consideración:

Junto con saludarle, mediante la presente carta hago presente mis sinceros agradecimientos por colaborar con material impreso para los cursos del idioma Japonés organizados por la Dirección de Vinculación con el Medio y Extensión y dictados por la Voluntaria de JICA Sra. [REDACTED]. Los textos donados ayudan a los alumnos inscritos en nuestros cursos y contribuyen de manera significativa en el aprendizaje del idioma japonés.

Estamos ciertos que una vez más hemos alcanzado plenamente el objetivo planteado originalmente por nuestra institución en lo referido a buscar el acercamiento entre ambas culturas

Reiterando nuestra gratitud por su valioso aporte se despide atentamente de usted,



[REDACTED]
**DIRECTORA DE VINCULACIÓN CON EL MEDIO
Y EXTENSIÓN**

CCA/svv

**Universidad de La Serena – Dirección de Vinculación con el Medio y Extensión
Los Carrera 207– Casilla 599 - Tel.: 56-51-2204389
cvitanic@userena.cl -mvera@userena.cl
La Serena – Chile
<http://extension.userena.cl/>**

2016年9月12日

神奈川県
産学連携事業
「本の架け橋プロジェクト」 御中

拝啓

このたび、私ども「ラ・セレナ大学 地域貢献部門」が主催し、JICA ボランティアの [REDACTED] が受け持つ日本語クラスのために、多数の書籍をご寄贈いただき、心より御礼申し上げます。

ご寄付いただいたこれらの書籍は、私どもの日本語クラスで学ぶ学生の役に立ち、日本語の習得に欠かせないものとなるでしょう。

さらに、これまで私ども地域貢献部門が企画してきた、互いの文化を更に知り身近なものにしよう、という目的にもかなうものであると確信しております。

皆様の貴いご寄付に、改めて感謝申し上げます。

敬具

ラセレナ大学 地域貢献部門 所長

<日本語訳：シニア海外ボランティア [REDACTED]>

本は、ここに届きました！

私の住む国、街、についてご紹介したいと思います。



【チリは、どんな国？】

チリは、南米にある、とてもとても細長い形の国です。太平洋を挟んで、日本のちょうど反対側にある国。パソコンの画面では、なかなか全体像がつかめません。長さは 4,300 キロ。ちょうど東京からシンガポールの距離と同じだそうです。そして日本との時差は 12 時間（冬時間の間は 11 時間）です。

距離が長いぶん、気候も乾燥地帯から氷河地帯まで様々。体感温度も場所によってかなり異なります。

首都はサンティアゴ。盆地にある緑の多いきれいな街です。

【ラセレナという街】

私が働いているラセレナという街をご紹介します。サンチャゴからバスで北へ 7 時間、飛行機で 1 時間。ちょうど東京から京都の距離にあたります。

ラセレナの中心部には多くの教会があり、歴史的建築が普段の生活の場として使われています。中庭のあるヨーロッパ風の古い建物が並ぶ、静かで落ち着いた雰囲気の街。私の職場も、古い建物です。



人口は 23 万人ほどですが、隣接するコキンボ市と合わせるとかなり大きな街です。大学が多く、チリ中から学生が集まりとても活気があります。海に面し、砂浜が広がっています。海産物がおいしく、また内陸部に入れば星空が美しく、乾燥地帯特有の景色も楽しめるので、特に夏には首都やアルゼンチンから多くの観光客が訪れます。



街の中心部には、広大な回遊式日本庭園、“心の庭”があります。20 年以上前、チリ最大手の鉄鋼企業が当時輸出先の 90% 以上を占めていた日本との友好関係を益々深めたいとの思いで作庭したものと聞いています。管理が非常に行き届き、市民の憩いの場となっている美しい公園です。

また、チリはワインで有名ですが、ここラセレナとその周辺には、ピスコという、ブドウからできる蒸留酒の工場が多くあります。ピスコは主にペルーとチリでよく飲まれるお酒で、チリ人はレモンと砂糖、卵の白身を混ぜたピスコサワーを乾杯の時によく飲みます。



【地震】

チリも日本と同じように、地震の多い国です。

ちょうど一年前の2015年9月に、ラセレナやコキンボ周辺を震源とした大きな地震が起きました。夜の8時ごろでしたが、周囲の人々は誰も慌てず、落ち着いて避難し始め、私も高台に避難しました。チリの人たちも地震のことをよく理解しているの、まったく混乱はありませんでした。その日は、日本でもテレビ画面に暫くの間津波情報が出ていたと聞きました。

ラセレナ近くの海岸にも、少し津波が来ました。また、ラセレナのシンボルになっている灯台（今は灯台としては使われていません）は、土台部分が崩れ、今でもまだ傾いた状態になっています。



右の写真、右奥が・・・



隣町のコキンボ以南は震源に近く、沿岸は大きな被害を受け、魚市場やレストランなどが流されたりしました。ちょうど地震の翌日は、チリで最大のお祭りでもある独立記念日と陸軍記念日の連休。毎年コキンボで大規模なイベントが行われており、昨年も小規模ながら実施されたようです。

現在は元通りの生活に戻っています。

【ラセレナ大学 私の働いているところ】

私の職場であるラセレナ大学は、生徒数が7500人ほどの総合大学です。現在、日本語教師は一人で、初級日本語クラス3コースを教えています。ラセレナ大生以外に他大生、社会人も参加しています。毎回初級クラスはとても人気があります。

また、ラセレナ大学では、毎年【チリと日本友好週間】という大きなイベントを開催しています。今年1月に9回目のイベントが行われ、チリで活動するJICAボランティアも大勢協力してくれました。

【今年の『チリと日本友好週間』】

本格的なお茶事は毎年恒例。「心の庭」で行われます。ギャラリーも相当な数です。





和太鼓と盆踊り。たくさんの方が一緒におどりました。

漢字であなたの名前を！

能面、初めて見ました。

囲碁は、いい勝負。



そして、大人気のコスプレコンテスト。



【このプログラムに申し込んだ理由は・・・】

昨年6月のはじめ、由緒ある建物とされていた私の職場が火事で全焼してしまいました。幸い深夜の火事で人的被害はありませんでしたが、ほぼすべてが燃えてしまったのです。



「心の庭」ができたころから少しずつ大学に集められた日本語の本は、Sala de NAGOYAKA という部屋に大事に置かれていました。その部屋は建物の一番隅にあったため書籍の半分弱は燃え残りしましたが、読める状態にあるものは3分の1程度。長編小説は一部が欠けています。特に、日本語学習者でも読めるような比較的易しい本が、ほとんど焼けてしまったのです。

【日本語を勉強したい、たくさんの人たち】



ゼロから日本語を学ぶクラスには、毎回多くの学生が参加します。彼らは本当によく日本のことをよく知っていますし、興味をもっています。そして日本語に挑戦してくれていま

す。スペイン語はアルファベットを使うので、平仮名と片仮名は彼らにはとても難しいのですが、3か月勉強すると、多くの人は平仮名が読めるようになります。日本語を学ぶきっかけはアニメ、マンガ、コスプレ、歌、スポーツなどです。



絵本の中でわかる文字を見つけたり、マンガを見たり、わかる範囲の日本語で本を読んでみたり、スペイン語で読んだ本を日本語で読んだり…そうすれば、ますます日本を好きになってくれるだろうと思い、このプログラムに応募しました。

【本の贈呈式 9月6日 事務所で行われました】

本の贈呈式が私の事務室でもある「Sala de NAGOYAKA」で行われました。大学関係者と職場の同僚たち、それに日本語学習者の有志が参加し、小さいながらもほのぼのとした贈呈式になりました。

皆様にご寄付くださった、心のこもったこれらの本、大切に使用させていただきます。

今年の3月に移転した、新しい事務所の中の新しい「Sala de NAGOYAKA」も、以前同様大学の本屋の奥にあります。そのため、本屋に寄ったついでにこの部屋に立ち寄る人もいます。多くの人々に、この不思議な文字の「右開きの本」を手にしてもらい、ますます日本のことを知ってもらえれば、と願っております。



贈呈式の様子は大学ホームページにも掲載されております。<http://www.userena.cl/cultura/1960-sala-de-lectura-nagoyaka-del-centro-de-extensi%C3%B3n-recibe-importante-donaci%C3%B3n-de-libros-gestionada-por-jica.html>



これが、新しい事務所です。頂いた本は、一階奥の「Sala de NAGOYAKA」に保管しています。



すてきな本のご寄贈、本当にありがとうございました。

重ねてお礼を申し上げます。



JICA シニア海外ボランティア